

重さ700グラム 「徳川埋蔵金」伝説が海鮮丼に 埋蔵金の正体は？

有料会員記事

編集委員・小泉信一 2022年3月26日 10時30分



デカ盛り丼として売り出す「まぐろの赤城山Ⅱ～隠された埋蔵金伝説～」。ポスター（後方）も完成した=渋川市白井の「上州・村の駅」



徳川埋蔵金の有力地とも言われる群馬・赤城山。伝説をヒントにした海産物てんこ盛りのどんぶりが販売される。食べ進めていくと「ある海産物」が具材の中に隠れている。

どんぶりの重さは約700グラム。ご飯の上にキハダマグロやホタテ、サーモン、ネギトロが山盛りだ。その名も「まぐろの赤城山Ⅱ～隠された埋蔵金伝説～」（税込み2068円）。

企画したのは、赤城山の西方の国道17号沿いに位置する食のテーマパーク「上州・村の駅」（群馬県渋川市白井）だ。

「村の駅」内にある「まぐろ丼屋とと丸」がオープンしたのは昨年3月。キハダマグロの赤身やビントロをてんこ盛りに積み上げ、一番上にネギトロをのせた「まぐろの赤城山」が名物だ。海がない群馬だが、マグロの消費量が全国でもトップクラスなことから考えたという。

どんぶりの底からの高さは約15センチ。「上州・村の駅」の広報担当・矢野目敦史さん(45)は「ご飯と刺し身を一口残し、最後に濃厚な魚介だしをかけて頂くと、だし茶漬けになっておいしいんですよ」とおすすめの食べ方を説明する。

第2弾の目玉商品を考えた時に、思いついたのが「徳川埋蔵金伝説」だ。矢野目さんは「赤城山は昔から徳川幕府の埋蔵金の有力地ではないと言われていた。テレビ番組にもなって、夢中になって見た記憶がある」と話す。

試食させてもらったが、さまざまな海産物の味を楽しめ、箸がどんどん進む。最初は食べられるかどうか不安だったが、一気に完食した。気になる「埋蔵海産物」の中身はまだ秘密。

販売日は4月2日から。問い合わせは「上州・村の駅」のホームページで。（編集委員・小泉信一）

〈徳川埋蔵金伝説〉 1868年、明治新政府軍に江戸城が明け渡された際、蔵には何もなかったという。諸説あるが、軍用金や金塊の隠し場所として挙げたのが赤城山(さん)麓(ろく)の旧・赤城村(現・渋川市赤城町)といわれる。テレビ番組にもなり、発掘もされたが、何も見つからなかった。もっと北へ分散して埋めたのではないかという話もある。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.